

次の文を読み問1～問3に答えよ。(2019年109回東アカ②成人)

Aさん(45歳、男性)は、3か月前から倦怠感と食欲不振が現れ始めた。また、排尿時に尿の泡立ちが生じていたが、仕事の疲れやストレスによるものと自己判断で放置していた。この度、会社の健康診断でタンパク尿と血液データの異常により精査を勧められ受診した。Aさんは最近食欲もなく食事の摂取量も減少したにも関わらず、体重が増えたのも気になっていたと外来看護師に話をした。

検査データ:血液データは、赤血球 530万/uL、Hb16.5g/dL、白血球 10000/uL、尿素窒素9mg/dL、クレアチニン0.7mg/dL、アルブミン2.6g/dL、LDLコレステロール200mg/dL。尿検査データは、尿蛋白(4+)、尿潜血、尿糖(-)

問1

受診時のアセスメントで正しいのはどれか

- 1, 貧血を呈している
- 2, 腎機能の低下がみられる
- 3, 糸球体透過性の低下がみられる
- 4, 脂質異常症がみられる

問2

Aさんは検査の結果、原発性ネフローゼ症候群と診断され、パルス療法が開始された。副作用として考えられるのはどれか。

- 1, 血圧低下
- 2, 易感染
- 3, 体重減少
- 4, 血糖低下

問3

Aさんは症状の軽快により退院することになり退院後の指導を受けるようになった。指導内容で正しいのはどれか。

- 1, 「高たんぱく質の食事を摂るようにしてください」
- 2, 「定期的に受診してください」
- 3, 「運動制限はありません」
- 4, 「インフルエンザ等の予防接種はできません」

次の文を読み問4～問6に答えよ。(2019年109回東アカ②成人)

Aさん(50歳、女性)は、2か月前から咳が続いている。風邪の症状と思っていたが夫の強い勧めで受診した。胸部エックス線検査で右肺下葉に異常の陰影がみとめられたため、気管支鏡検査で精密検査を行うことになった。Aさんに既往歴、現病歴、喫煙歴はない。

問4

- 1、「検査前日の夕食から絶飲食になります」
- 2、「全身麻酔で行います」
- 3、「検査後すぐに食事が可能です」
- 4、「検査中は指先か耳梁にセンサーをつけ呼吸状態を観察します」

問5

Aさんは気管支鏡検査の結果、右肺下葉のステージⅠAの腺癌と診断され、胸腔鏡下での手術目的で入院となった。Aさんには治療方針、手術について主治医から説明があり、術前のオリエンテーションも行われた。Aさんはこわばった表情で「どうして肺癌になったのでしょうか。たばこも吸わないし、今まで病気らしい病気をしたことがありませんでした。手術も怖く、不安で夜も眠れなくなりました。」と唇を震わせながら看護師に話した。

Aさんに対する看護師の対応で最も適切なのはどれか。

- 1、「主治医からの説明で分からなかったことはありませんか」
- 2、「たばこを吸わない人も腺癌になる可能性はありますよ」
- 3、「胸腔鏡下の睡眠薬を処方してもらいましょうか」
- 4、「主治医に睡眠薬を処方してもらいましょうか」

問6

Aさんに胸腔鏡下での右肺下葉の切除術が施行され、胸腔ドレーンを挿入、持続陰圧吸引中である。術後1日目の持続陰圧吸引中に異常と考えられるのはどれか。

- 1、70ml/時の赤褐色の排液
- 2、安静呼気時の少量のエアリーク
- 3、ドレーン内の液面の呼吸性変動
- 4、ドレーン挿入部の膨隆拡大

次の文を読み問7～問9に答えよ。(2019年109回東アカ②老年)

Aさん(75歳、男性)は1人で暮らしており、年金で生計を立てている。長男家族は遠方に住んでおり、ときどき電話で様子を確認している。普段、Aさんは老人クラブのゲートボールに参加したり、車で近所の市営プールに週2回ほど通ったりするなどして過ごしている。最近、視力の低下を感じ、生活に支障を来すようになってきたため、眼科を受診したところ、老人性白内障と診断された。なお、Aさんは高血圧症のため内服治療中で、血圧のコントロールは良好である。

問7

現在、Aさんにみられる自覚症状として考えられるのはどれか。2つ選べ。

- 1, 眼痛
- 2, 羞明
- 3, 眼脂
- 4, 霧視
- 5, 光視

問8

Aさんは1週間後に超音波水晶体乳化吸引術および眼内レンズ挿入術を日帰りで受けることになった。Aさんへの説明として適切なのはどれか。

- 1, 「手術当日は血圧のお薬は飲ませないでください」
- 2, 「手術は局所麻酔で行います」
- 3, 「手術翌日から洗顔ができます」
- 4, 「手術時間は、およそ3時間です」

問9

Aさんの手術は特に問題なく終了した。

術後の日常生活指導として適切なのはどれか。

- 1, 「ゲートボールのときは毎回サングラスが必要です」
- 2, 「術後1か月は車の運転を控えてください」
- 3, 「プールは術後1週間から入れます」
- 4, 「視力低下や眼痛が生じたときは速やかに受診してください」

次の文を読み問10～問12に答えよ。(2019年109回東アカ②小児)

Aちゃん(7か月、女児)は、昼頃から嘔吐し始め、夕方までに10回以上の下痢便がみられたため、母親に連れられて小児救急外来を受診した。来院時、Aちゃんは機嫌が悪く母親にしがみついている、経口摂取はできない状態であった。バイタルサインは、体温37.2℃、呼吸数42/分、心拍数140/分である。午前11時に飲んだミルクが最後であり、直ちに末梢静脈ラインが留置され、持続点滴が開始となった。便検査の結果、ロタウイルス性胃腸炎と診断され、入院することとなった。

問10

入院時の観察で優先されるのはどれか。

- 1, 発熱の有無
- 2, 尿の回数
- 3, 食欲の有無
- 4, けいれんの有無

問11

母親から「Aのおむつを替えようとして、便でAの服を汚してしまいました。模様のある服なのですが、どうしたらよいですか」とナースコールはがかった。

看護師の対応で適切なのはどれか。

- 1, 病室内でエタノール溶液に浸す
- 2, 病室内で次亜塩素酸ナトリウム溶液に浸す
- 3, ビニールに密閉し、医療廃棄物のごみ箱に捨てる
- 4, 病室内で熱湯に浸した後、洗濯する

問12

入院後1日が経過し、Aちゃんの嘔吐が治まったが、便は水様～軟便が数回みられる。Aちゃんはベッド上で活発に動き回るようになり、よだれを流し、食べ物を欲しがらる様子もみられたため、医師から経口摂取の許可がでた。

食事の進め方について、母親への指導で正しいのはどれか。

- 1, 「Aちゃんが欲しがらるものを欲しがらるだけであげてよいですよ」
- 2, 「経口補水液から始めてみましょう」
- 3, 「1回に与える量を多くし、回数を減らしましょう」
- 4, 「下痢をしたら経口摂取はやめてください」

次の文を読み問13～問15に答えよ。(2019年109回東アカ②小児)

Aちゃん(6か月、女児)は、出生時に直腸計が挿入できず、膣より胎便の排泄がみられた。鎖肛が疑われ、エックス線検査の結果、低位鎖肛と診断された。他の奇形はみとめられず、瘻孔の状態から、体重増加を待って会陰式根治術(肛門形成術)を行うこととなった。Aちゃんは、母親に連れられて定期的に外来受診している。本日定期受診の際、母親が「最近、ミルクは何とか飲むのですが、吐くことが多くなった気がします。また、最近、体動が活発になり、おむつを替えるのが大変です」と話す。前回の受診時より体重増加は良好である。

問13

母親の問診で優先度が高いのはどれか。

- 1, 排尿回数
- 2, 排便の有無
- 3, 活気の有無
- 4, 哺乳量

問14

Aちゃんは、定期受診の1か月後、予定通り会陰式肛門形成術を受けた。術後2日目、絶飲食中でまだ排便はみられない。肛門周囲のスキンケアで最も適切なのはどれか。

- 1, クロルヘキシジンで消毒する
- 2, 泡石鹼で洗浄する
- 3, 微温湯で洗浄する
- 4, お尻ふきで拭く

問15

術後2週間が経過し、創部の状態も安定している。ブジーが開始され、退院後も継続するため、母親へ指導で正しいのはどれか。

ブジーの指導で正しいのはどれか。

- 1, 「左側臥位で行いましょう」
- 2, 「直腸の向きに沿ってゆっくり入れてあげましょう」
- 3, 「できるだけ深く入れましょう」
- 4, 「排便があった日は行わなくて良いです」
- 5, 「毎食後に行いましょう」

次の文を読み問16～問18に答えよ。(2019年109回東アカ②母性)

Aさん(30歳、初産婦)は、妊娠30週の妊婦健康診査のため、受診した。レオポルド触診法では、子宮底部に可動性のある硬球状のものが触知されたほか、母体の左側に移動性に欠ける弓状に曲がった板状のものを触れた。

問16

Aさんの胎児の胎位はどれか。

- 1, 第1頭位
- 2, 斜位
- 3, 第1骨盤位
- 4, 第2骨盤位

問17

その後行われた超音波検査の結果を受けて、医師からAさんへ、妊娠36週以降もこの胎位のままである場合は帝王切開での出産になる可能性が高い、との説明があった。これまでの妊娠経過は正常で、既往歴に特記すべきことはない。Aさんは「できれば、普通に産みたいです。帝王切開はしたくないけど、赤ちゃんが無事に生まれてくるためなら、仕方ないですね」と沈んだ様子で話す。Aさんへの対応で適切なのはどれか。

- 1, 「妊娠36週までわからないので、気にせず普通に生活してください」
- 2, 「できるだけ自然に戻るように、赤ちゃんが回転しやすい体位をお教えしましょうか」
- 3, 「赤ちゃんのためですから、どちらにしても頑張りましょう」
- 4, 「帝王切開で産む方もたくさんいらっしゃいますよ」

問18

その後、妊娠36週の妊婦健康診査にて頭位への改善が確認され、Aさんは妊娠40週に経膈分娩で児を出産した。児は体重3060gで、アプガースコア1分後9点、5分後10点であった。子宮底の高さは臍上1横指、硬度はやや柔らかい。分娩時出血量は1100mLで、胎盤娩出後に凝血を含む暗赤色の出血がみられ、弛緩出血と診断された。

弛緩出血の原因として考えにくいのはどれか。

- 1, 子宮筋の疲労
- 2, 胎盤の遺残
- 3, 膀胱の充満
- 4, 頸管裂傷

次の文を読み問19～問21に答えよ。(2019年109回東アカ②精神)

Aさん(19歳、男性)は、両親と妹の4人家族である。4月から県外の大学に進学し、1人暮らしを始めている。小学生のときにてんかんと診断された。抗てんかん薬の服用によって発作のコントロールはできていたが、1人暮らしを始めてからしばしば内服を忘れるようになった。本日、講義中に突然意識を消失して転倒し、全身がつっぱるように硬直したあと、四肢が激しく振戦する発作が出現したため、救急車で大学病院に搬送された。

問19

講義中に出現したてんかん発作の種類はどれか。

- 1, 複雑部分発作
- 2, 自律神経発作
- 3, 脱力発作
- 4, 強直間代発作

問20

Aさんにバルプロ酸ナトリウムが処方されている。

この薬の副作用としてみられるのはどれか。

- 1, アカシジア
- 2, リチウム中毒
- 3, 脱毛
- 4, 高血糖

問21

Aさんへの生活指導で正しいのはどれか。

- 1, 「スポーツは禁止です」
- 2, 「睡眠不足には十分に注意しましょう」
- 3, 「薬を飲み忘れた場合は次の服用時間に倍量飲んでください」
- 4, 「副作用が出現したらすぐに薬の服用を中断してください」

次の文を読み問22～問24に答えよ。(2019年109回東アカ②精神)

Aさん(35歳、女性)は、夫、小学生の娘と3人で暮らしている。1か月前に通勤電車内で突然の動悸と息苦しさに襲われ、その場にしゃがみ込み、心臓が止まってしまうのではないかと感じた。それ以降、「また強い動悸がくるのではないか」と考えるようになり、同様の発作が繰り返し起こるたびに、このような思いが強くなっていった。今朝、自宅にて「外に出ることが怖い」「また発作が起こる」と訴え、心配した夫に付き添われて精神科外来を受診した。

問22

外来受診時の看護師の対応で適切なのはどれか。

- 1, 循環器疾患ではないことを説明する
- 2, 発作時の詳細を確認する
- 3, 恐怖感を受容して安心感を与える
- 4, 発作を気にしすぎないように説明する

問23

Aさんにみられる障害はどれか。

- 1, 素行障害
- 2, パニック障害
- 3, 社会不安障害
- 4, 気分障害

問24

Aさんは、医師から外来治療の必要性について説明され、選択的セロトニン再取り込み阻害薬による薬物療法が開始になった。外来受診から2日後、電話にて「まだ発作が怖くて、日中に外出できません」と外来看護師に訴えてきた。看護師の電話対応で適切なのはどれか。

- 1, 「少しずつ発作が減っていくと思います」
- 2, 「頑張って1日1回外出してみましよう」
- 3, 「日中に服用している薬を倍量にして服用してください」
- 4, 「直ちに外来受診してください」